

どのようなときに Windows Virtual Desktop を使用するか

100 XP

9 分

Tailwind Traders が直面しているアプリケーションのスケーリングに関する課題に加えて、管理者はリモートワーカーの新しい開発チームを作成するように求めています。

通常、このタスクを行うには、新しいチームのために必要な開発ツールをすべて備えた複数の新しいコンピューターをセットアップする必要があります。その後、全国のそれぞれの開発者にそれを配布する必要があります。これらの各コンピューターの調達、設定、出荷に要する時間はコストがかかります。また、すべての新しい開発者が、Windows、Android、macOS の各オペレーティングシステムを搭載した独自のコンピューティングデバイスを所有するようになります。

リモートワーカーのデプロイプロセスが迅速に行われる方法を見つける必要があります。また、管理コストを最小限に抑える必要もあります。この点を念頭に置いて、Windows Virtual Desktop が組織にどのように役立つかを確認します。

Windows Virtual Desktop とは

Azure 上の Windows Virtual Desktop は、クラウドで実行されるデスクトップおよびアプリケーションの仮想化サービスです。ユーザーは、クラウドでホストされたバージョンの Windows を任意の場所から使用できます。Windows Virtual Desktop は、Windows、Mac、iOS、Android、Linux などのデバイスで動作します。リモートデスクトップやリモートアプリへのアクセスに使用できるアプリで動作します。また、ほとんどの最新のブラウザを使用して、Windows Virtual Desktop でホストされているエクスペリエンスにアクセスすることもできます。

次の動画では、Windows Virtual Desktop の概要を説明しています。

なぜ Windows Virtual Desktop を使用する必要があるか

最善のユーザー エクスペリエンスを提供する

ユーザーは、任意のデバイスを使用してインターネット経由で Windows Virtual Desktop に自由に接続できます。Windows Virtual Desktop クライアントを使用して、公開されている Windows デスクトップとアプリケーションに接続します。このクライアントは、デバイス上のネイティブアプリケーションでも、Windows Virtual Desktop の HTML5 Web クライアントでもかまいません。

セッション ホスト仮想マシン (VM) を、データセンターやクラウドに接続するアプリやサービスの近くで実行させることができます。このようにすると、ユーザーの生産性が維持され、長時間の読み込み時間は発生しません。

ユーザー プロファイルが FSLogix を使用してコンテナ化されているため、Windows Virtual Desktop へのユーザー サインインは高速です。サインイン時に、ユーザー プロファイル コンテナがコンピューティング環境に動的にアタッチされます。ユーザー プロファイルはすぐに利用できるようになり、ネイティブのユーザー プロファイルとまったく同じようにシステムに表示されます。

個人の (永続的な) デスクトップを通して、個々の所有権を提供できます。たとえば、エンジニアリング チームのメンバーに個人用のリモート デスクトップを提供することができます。リモート デスクトップの他のユーザーに影響を与えることなく、プログラムを追加または削除できます。

セキュリティを強化する

Windows Virtual Desktop では、Azure Active Directory (Azure AD) を使用して、ユーザーのデスクトップのセキュリティが一元的に管理されます。多要素認証を有効にして、ユーザーのサインインをセキュリティで保護することができます。また、きめ細かいロールベースのアクセス制御 (RBAC) をユーザーに割り当てることで、データへのアクセスをセキュリティで保護することもできます。

Windows Virtual Desktop を使用すると、データとアプリはローカル ハードウェアから切り離されます。それらは、Windows Virtual Desktop によって代わりにリモート サーバー上で実行されます。個人のデバイスに機密データが残されるリスクが減ります。

単一セッション環境でも複数セッション環境でも、ユーザー セッションは分離されています。

また、Windows Virtual Desktop により、リバーシブル接続テクノロジーを使用してセキュリティも強化されます。この接続の種類は、リモート デスクトップ プロトコルより安全です。セッション ホスト VM に対する受信ポートは開きません。

Windows Virtual Desktop の重要な機能

簡素化された管理

Windows Virtual Desktop は Azure サービスなので、Azure 管理者にとっては馴染みのあるものです。リソースへのアクセスを管理するには、Azure AD と RBAC を使用します。また、Azure を使用すると、VM のデプロイを自動化し、VM の更新を管理し、ディザスター リカバリーを実現するためのツールを入手できます。他の Azure サービスと同様に、Windows Virtual Desktop では監視とアラートに Azure Monitor が使用されます。この標準化により、管理者は 1 つのインターフェイスで問題を特定できます。

パフォーマンス管理

Windows Virtual Desktop には、VM ホスト プールでユーザーの負荷を分散させるためのオプションがあります。ホスト プールは、複数のユーザーに同じ構成が割り当てられる VM のコレクションです。最適なパフォーマンスを得るため、ユーザーのサインイン時に負荷分散が行われるように構成することができます (幅モード)。幅モードでは、ユーザーはワークロードのホスト プール全体に順番に割り当てられます。コストを節約するには、VM を深さモードの負荷分散用に構成できます。この場合、ユーザーは 1 つの VM に完全に割り当てられた後、次の VM に移動します。Windows Virtual Desktop には、受信要求が指定されたしきい値を超えたときに追加の VM が自動的にプロビジョニングされるツールがあります。

マルチセッション Windows 10 のデプロイ

Windows Virtual Desktop を使用すると、Windows 10 Enterprise マルチセッションを使用できます。これは、単一の VM での複数の同時ユーザーを可能にする唯一の Windows クライアントベースのオペレーティング システムです。また、Windows Virtual Desktop では、Windows Server ベースのオペレーティング システムと比べてより広範なアプリケーションがサポートされる、より一貫したエクスペリエンスも提供されます。

Windows Virtual Desktop でコストを削減する方法

ライセンス持ち込み

有効な Microsoft 365 ライセンスがある場合、Windows Virtual Desktop を追加料金なしで利用できます。Windows Virtual Desktop で使用される Azure リソースに対してのみ課金されます。

- 自分が持っている Windows または Microsoft 365 の有効なライセンスを持ち込んで、Windows 10 Enterprise および Windows 7 Enterprise のデスクトップとアプリを追加コストなしで利用できます。
- 有効な Microsoft リモート デスクトップ サービスのクライアント アクセス ライセンスのお客様は、Windows Server リモート デスクトップ サービスのデスクトップとアプリを追加コストなしで利用できます。

コンピューティング コストを節約する

1 年間または 3 年間の Azure Reserved Virtual Machine Instances を購入すると、従量課金制の価格と比較して最大 72% を節約できます。予約の支払いは、前払いとすることも、月払いとすることもできます。予約は課金割引を提供するもので、リソースの実行時の状態には影響しません。